

J A士幌町 本所建て替え 総額41億円、来年度着工 畜産センターも

J A士幌町（篠原末治組合長）は12日、本部事務所（町士幌西2線）と畜産センターを建て替える方針を明らかにした。老朽化や事業拡大で施設が手狭になっているため。今年度中に基本設計・実施設計を行い、来年度に着工する。同J Aの創立90周年に合わせ、2021年の完成を目指す。総事業費は41億円。

同日の通常総会で報告した。新事務所は現施設の東側に建設し、畜産センターを併設する。

現本部事務所（約3600平方メートル）は完成から47年が経過し老朽化が進み、事業拡大に伴い営農指導員など職員も増えて狭あい化していた。

畜産センターも獣医や人工授精師が増え、手術室は家畜の頭数増により手狭になっている。

いずれの新施設も基本的な機能は変わらないが、新事務所は現在より1.5倍の広さとなり、新たに庭園を眺め

られるラウンジも設け、組合員が気軽に足を運べるようにする。農業会館の機能も新施設に移す。畜産センターも広めの設計とし、職員や家畜の増加に対応する。

現施設の跡地は駐車場になる予定。同J Aは「組合員の意見も聞きながら事業を進めたい」としている。

全組合員約400戸に端末を配布し、営農情報などのやりとりが簡単に行える情報ネットワークシステムの導入も決めた。12月からの運用開始を目指す。

畜産伸び生産200億円 過去3番目の高水準 J A帯広かわにし 2019年6月14日

J A帯広かわにし（有塚利宣組合長、正組合員770人）の通常総代会が14日午前9時半、帯広市内の同J A本所で開かれた。2018年度の農業生産額は200億9586万円。天候不順が影響して過去最高だった前年度に比べ2.6%減少したが、畜産収入の伸長で過去3番目に高い水準となった。

民間企業の売上高に当たる事業収益は230億5403万円、経常利益は6億7913万円を確保。当期末処分剰余金は8億7996万円を計上した。

農作物は6月中旬以降の曇天と低温の影響を受けた。部門別の生産額は、小麦が30.1%減の25億4751万円。ビートは平均糖分が0.2ポイント増の17.3%と高かったが、生産額は10.2%減の22億414万円だった。ジャガイモは14.1%減の21億1604万円、豆類は3.7%減の15億4780万円だった。

生乳販売は前年の粗飼料が良質で増産基調となり、4.1%増の28億1614万円。肉用牛や乳用牛の個体販売は市場価格の高値が続ぎ、畜産の合計は8.9%増の81億1376万円となった。

総代210人のうち196人が出席（書面含む）。開会あいさつで有塚組合長は、農畜産物の品質保証や宇宙食への挑戦など高付加価値化の取り組み、今年度の基盤整備事業に触れながら、「川西の持続的な農業の展開と後継者の夢を増幅し豊かな地域づくりを進める」と述べた。

総生産額8.3%減34億円 青果部門が過去最高 J A木野 2019年6月15日

J A木野（清都善章組合長、正組合員163人）の通常総会が14日、同J Aで開かれた。2018年度の農産・青果・畜産の総生産額（交付金、補給金など含む）は、過去最高だった前年度に比べ8.3%減の34億4900万円だった。総会後に理事会を開き、任期満了に伴う役員改選で清都組合長（67）を再任した。

生産額の内訳では、野菜などの青果部門は、主力のブロッコリーが高値相場に支えられ過去最高の6億1000万円（前年度比7%増）となり、全体でも14億3100万円と過去最高を更新した。

農産物は9億4100万円（同5.2%減）。酪農・畜産は乳牛頭数の減少や、胆振東部地震のブラックアウトによる生乳廃棄の影響もあり、3億2600万円（同18.4%）となった。

事業総利益は8億2070万円、当期末処分剰余金は1億6854万円を計上した。子会社ハピオのスーパー部門の売り上げは26億7800万円（同0.4%減）だった。

総会には代理、書面を含む132人が出席。清都組合長は「組合員と一緒に、地域に必要とされるJ Aを目指し事業推進に取り組みたい」と述べた。